

(165) 群馬県下仁田の中小坂(なかおさか)鉄山

現在、下仁田は「ジオパーク」を称して、地域の地質財産の観光化に力を傾けている。その1つのスポットとして紹介されている少ない鉱山跡遺跡が「中小坂鉄山」である。江戸時代から昭和まで金属の原料である磁鉄鉱を大規模に産出していた。その跡地は現在観光資源として確りと整備されており、安心して現地を訪問することが出来る。以下で2回訪問した結果を報告する。

現地には、数多くの坑口跡があり、一帯に鉄鉱石が転がっている。鉄鉱石の採取もしたい方は、磁石をビニール袋に入れ、それに1m~2mの紐を結びつけた自作の「探査器」を準備した方が良いであろう。この探査器の紐を手に持ち磁石をぶら下げ、地面を引き回すと、磁鉄鉱ならば、磁石が固着する。磁鉄鉱の純度により固着の力の強弱もわかる。磁鉄鉱を探す簡易な方法であるが、確実な方法である。なを、磁石を裸ではなく、ビニール袋に入れるのは砂鉄などがこびり付くのを避けるためである。

探査日 2020年10月

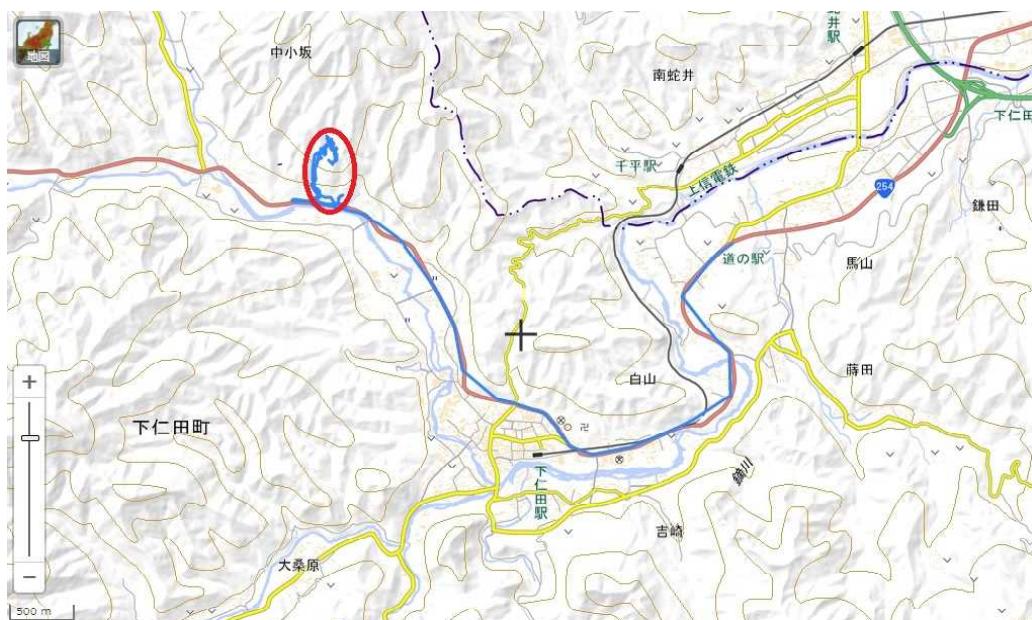


図1 高速道の下仁田ICを降りて、254号線を西行し、下仁田の市街を通り抜けた「中小坂」地区に本鉄山跡がある。図中の赤輪の所である。



図2 図1の部分拡大図。254号沿いのP点は中小坂鉄山用の無料駐車場である。自由に利用できる。ここに車を止めて歩こう。A点から村道に入り、直ぐ先のB点で村道は分岐している。坑口跡などへは左側の村道を北に進んでいく。直ぐに林道となり、C点付近の右側の沢の所に最初の坑口跡がある。右手の山の斜面には多数の坑口跡、それらしいところがあり、特にE点付近には多数あり、書き切れていない。C点から更に林道を登っていくと広場となる、D点である。「飯場跡」らしい。D点から右側の山の斜面を消えかかっている林道に沿って登り上がっていく。E点付近に多数の坑口跡がある。何カ所かに案内ロープが張られている。斜面を斜めに登り上がって稜線に出ると大きな縦坑跡がある。そこから少し稜線を南に進むと社がある。F点である。G点は「鉱石精錬所跡」らしいが、現在付近には民家が建ち並んでおり、最上部の一部だけが残っている。掲示板と社がある。

鉱山跡写真



写真1 図2中のP点。道の前方は内山峠方向。石垣の上に「中小坂鉄山駐車場」の看板が立っている。無料開放されており、車はここに止めよう。



写真2 駐車場内に掲示されている看板。これに従えば、鉄山跡を巡るのは容易である。



写真3 図2中のB点。左手に伸び上がっている林道を登り、稜線上にある石宮を目指そう。



写真4 図2中のC点。沢の向こう側の黒い穴が坑口跡。赤輪の所。写真3に記されている「第一坑」であろう。



写真5 その内部を入口から覗く。



写真6 付近にあった別の坑口跡。この付近には更に他の坑口跡がある。



写真7 写真6で示した坑口跡の内部の様子。



写真8 C点から林道を更に登っていくと、広いプラトーに出た。D点。写真3に記されている「飯場跡」であろう。



写真9 写真8で示したプラトー部の東側に指導標があった。「石宮／山頂→」、「坑道／火薬庫→」。これに従って右側斜め上方に伸びている消えかかっている林道を進んで行く。図2のE点付近となる、一帯に数多くの坑口跡がある。写真是幾つか撮ったが、掲載は省略。



写真10 途中沢山の坑口跡があった。また所々には案内ロープもあった。斜面を登り上がり、稜線上に達したところにあった、大きくて深い縦坑。



写真11 写真10の所から、稜線上を南の方向へ少し進むと、「石宮」があった。小さい。ハンマーを対比させているのでそれがわかる。



写真12 分岐点のB点から右に進んで行き、経路ログの通り一度245号に出て、直ぐに村道に入っていくと、民家の先に製鉄所跡が残っていた。写真の如く白い案内板がある。



写真13 白い案内板の左手の方向に、草に埋もれかかっている小さい社があった。鉱山跡に偶に見かける鎮守様である。

採集標本

ありふれた磁鉄鉱なので未掲載。現地には至る所に磁鉄鉱が落ちている。訪問時にはフェライト磁石などに袋を被せ、1m～2mの糸にぶら下げた物を準備すると良い。こうすれば立ち姿のまま、足元の磁鉄鉱を探し出せる。引きの強弱も直ぐわかる。やはり引きの強い物の方が好まれる。

参考文献

- (1) 下仁田が一般配布している観光案内パンフレットの1つ。